表04

表01

SUNSET

サンセット／サンライズ

2022.
02.15 tue ー
05.08 sun

［展覧会］
サンセット／サンライズ
会期：2022年2月15日［火］ー5月8日［日］
主催：豊田市美術館
協力：西村画廊
企画・構成：都筑正敏（豊田市民芸館）
　　北谷正雄（豊田市美術館）

SUNRISE

豊田市美術館

［ギャラリーガイド］

「サンセット（日没、夕暮れ）」と「サンライズ（日の出、夜明け）」。
それは、毎日、誰にでも、平等におとずれる美しい自然現象です。生きとし生けるものはすべて、この宇宙に流れる悠久のリズムに寄り添いながら生きています。
「サンセット／サンライズ」が孕むイメージの豊かさは、眠りと目覚め、終わりと始まり、死と生、闇と光など、さまざまな象徴や解釈の可能性を差し出してくれるところにあります。こうした、生きる人間の儚さと強さ、相反する価値観やそのあわいなどをも表す意味の広がりは、まさしく芸術家たちの創造の問いかけと重なりあうものです。
また、日没と日の出の前後に現れる薄明の神秘的な時間帯は「マジックアワー」とも呼ばれています。心が動かされる魔術のような光景に立ち会う経験は、思いもかけない美術作品との出会いにどこか似ているともいえるでしょう。
本展は、こうした「サンセット／サンライズ」から派生する多様なイメージ・想像力を手がかりに、豊田市美術館のコレクションの中から厳選した作品約120点で構成する試みです。
さらに招待作家として、愛知県にゆかりのある小林孝亘氏を迎え、静けさと強い存在感をもつその数々の絵画作品を豊田市美術館のコレクションとともに紹介します。
今、世界を覆う深い闇からの夜明けを祈りつつ、美術館で心が揺さぶられる豊かな「サンセット／サンライズ」のひとときをお楽しみください。

SUNSET SUNRISE

サンセット／サンライズ

第１章 「マジックアワー」
マジックアワーとは撮影用語で、日没と日の出の前後に現れる薄明の神秘的な時間帯を指すものです。誰もがこの魔術のような光景に立ち会い、心が揺さぶられた経験はあるでしょう。それは思いもかけない美術作品との出会いにどこか似ているともいえます。この章では、まさに夢を見ているかのような謎めいた瞬間を浮かび上がらせた作品を紹介します。

第２章 「眠り／目覚め」
第３章 「死／生」
日没から日の出まで。それは一般的に生きものが1日の営みを終え、眠りについてから翌朝目覚めるまでの時間といえるでしょう。人間の生理現象である眠り、特に目を閉じる行為や状態は、これまで多くの芸術家の創造を駆り立ててきました。それは、夢と現実、あるいは非現実と現実をつなぐ営為であり、実に大きな意味の広がりを持っているのです。また、「永眠」という言葉があるように、死は眠りに例えられますし、「死んだように眠る」というように、眠りと死は深く結びついています。眠りは生きる上で必要なものでありながら、その裏には死が存在するのです。そして眠りの後にはさまざまな目覚めが訪れます。死して後、次の多様な生存となって生まれ変わるとする死生観はアジアの宗教や哲学に見出すことさえできるのです。
この二つの章では、美術における眠りと目覚め、生と死にまつわる表現を紹介します。

第４章 「見えない／見える」
日が落ちれば視覚は遮られ、日が昇れば視覚は開かれていきます。見えなくなれば、前に進むことを、思考することをも断念しがちです。私たちの眼は、日ごろ、見えるものにとらわれ過ぎているのかもしれません。ここでは視覚の束縛をこえて、世界を見ることを問い直すセクションとします。

第５章 「黒／白」
黒と白は、「夜と昼」「闇と光」「洗練」「畏怖」「神秘」など高い象徴性を備えています。あらゆる芸術を生み出す原点といえる色です。ここではモティーフの陰影や質感を際立たせ、作品に豊かな表情をもたらす作品を紹介します。

第６章 「終わり／始まり」
前衛芸術の旗手たちは、伝統的な手法や既成の権威を否定して常に新しい時代への夜明けを告げる表現を模索し続けてきました。この最終章では、因習的な表現に対して大幅な刷新を図り、次代の扉を開いた作家たちのイマジネーション溢れる作品を展示します。

テキスト：都筑正敏

マジックアワー（展示室８）

小林 孝亘
Corpse candle
2015年
油彩、カンヴァス
91.0×91.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Home
2022年
油彩、カンヴァス
100.0×80.0cm
作家蔵

杉本 博司
AEGEAN SEA, PILION
1990年
ゼラチンシルバープリント
119.4×149.2cm
寄託作品

浜田 知明
よみがえる亡霊
1956年
エッチング、アクアチント、紙
30.8×21.6cm

浜田 知明
噂
1961年
エッチング、アクアチント、紙
36.2×23.6cm

久門 剛史
crossfades #4 air
2020年
スクリーンプリント、アルシュ紙、インク、他
各76.0×56.0cm（3点）
作家蔵

丸山 直文
breeze 2
2004年
アクリル、綿布
227.0×145.5cm

丸山 直文
path 4
2005年
アクリル、綿布
185.0×185.0cm

村瀬 恭子
Swallows 2
2009年
油彩、色鉛筆、綿布
190.0×145.0cm

村瀬 恭子
Swallows 3
2009年
油彩、色鉛筆、綿布
190.0×150.0cm

山本 糾
暗い水ー白山 IV
1993年
ゼラチンシルバープリント
125.0×200.0cm

サルバドール・ダリ
皿のない二つの目玉焼きを背に乗せ、ポルトガルパンのかけらを犯そうとしている平凡なフランスパン
1932年
油彩、板
16.0×22.0cm

ライアン・ガンダー
おかあさんに心配しないでといって（6）
2013年
大理石樹脂
84.0×88.0×142.5cm

イヴ・タンギー
失われた鐘
1929年
油彩、カンヴァス
64.2×53.2cm

眠り／目覚め（展示室８）

小林 孝亘
Portrait - resting cheeks in hands
2006年
油彩、カンヴァス
162.0×130.5cm
西村画廊

イケムラレイコ
黒に浮かぶ
1998-99年
油彩、カンヴァス
120.5×120.5cm

イケムラレイコ
黒の中に横臥して
1998-99年
油彩、カンヴァス
80.0×150.0cm

イケムラレイコ
黒に舞う
1998-99年
油彩、カンヴァス
120.0×120.0cm

イケムラレイコ
黒の中
1999年
油彩、カンヴァス
110.5×150.5cm

イケムラレイコ
きつねヘッド
2010年
陶
18.0×27.0×11.0cm

奈良 美智
Untitled
1987年
アクリル、色鉛筆、紙
85.0×99.0cm
寄託作品

奈良 美智
Dream Time
1988年
アクリル、カンヴァス
116.7×90.9cm

奈良 美智
Romantic Catastrophe
1988年
アクリル、色鉛筆、カンヴァス
116.7×90.9cm
寄託作品

村瀬 恭子
Guru - guru
2002年
油彩、綿布
70.0×61.0cm

村瀬 恭子
Nap（L）
2003年
油彩、綿布
100.0×80.0cm

森 千裕
ヘッドルーム
2016年
水彩、墨、アクリル、鉛筆、紙、木製パネル
140.5×102.0cm
寄託作品

コンスタンティン・ブランクーシ
眠る幼児
1907年（1960/62年鋳造）
ブロンズ
10.6×16.3×14.2cm

コンスタンティン・ブランクーシ
雄鶏
1924年（1972年鋳造）
ブロンズ
92.4×10.5×45.0cm

マックス・クリンガー
ミューズの頭部
1890年以前
大理石に着色
17.5×34.5×23.2cm

死／生（展示室8）

小林 孝亘
Sleeping bag（blue）

2010年
油彩、カンヴァス
97.0×162.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Pillow
2021年
油彩、カンヴァス
91.0×117.0cm
作家蔵

加藤 泉
無題
2006年
油彩、カンヴァス
194.0×162.0cm

川内 倫子
Untitled シリーズ「SEMEAR」より
2007年
タイプCプリント
103.0×103.0cm

川内 倫子
Untitled シリーズ「SEMEAR」より
2007年
タイプCプリント
103.0×103.0cm

河原 温
MAY 22, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 23, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 24, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 25, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 26, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 27, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

河原 温
MAY 28, 1971 Todayシリーズ
(1966-2013)より
1971年
アクリル、カンヴァス、新聞紙、厚紙
25.5×33.0×4.0cm

北山 善夫
図 絵画　私の母は死んだ
1996-97年
インク、鳥の子紙
214.0×154.0cm

北山 善夫
図 絵画　場所の時
1997年
インク、鳥の子紙
214.0×154.0cm

福田 美蘭
涅槃図
2012年
アクリル、カンヴァス
182.0×227.2cm

福永 恵美
greenhide
2005-06年
脱色した菊の葉、蝋、油絵具、木材
サイズ可変
寄託作品

クリスチャン・ボルタンスキー
聖遺物箱(プーリム祭)
1990年
写真、ランプ、電気コード、ビスケット缶、網
339.0×296.0×88.0cm

ローマン・オパルカ
オパルカ 1965/1-∞
ディテイル 2601104-2626001
1977年
アクリル、カンヴァス
196.5×136.0cm

ローマン・オパルカ
オパルカ 1965/1-∞
ディテイル 3395602-3411010
1981年
アクリル、カンヴァス
196.5×135.0×3.2cm

ローマン・オパルカ
オパルカ 1965/1-∞
ディテイル 4968512-4988005
1994年
アクリル、カンヴァス
196.5×135.5cm

見えない／見える（展示室8）

小林 孝亘
Hard Shell
1992年
油彩、綿布張りパネル
75.0×190.0cm
作家蔵

ソフィ・カル
盲目の人々
1986年
写真、テキスト、額

黒／白（展示室1〜3）

小林 孝亘
Water Fountain
1994年
油彩、カンヴァス
182.0×245.0cm
東京国立近代美術館

狗巻 賢二
作品 92-1
1992年
油彩、カンヴァス
56.5×41.5cm

狗巻 賢二
作品 92-3
1992年
油彩、カンヴァス
60.5×43.0cm

狗巻 賢二
作品 92-4
1992年
油彩、カンヴァス
60.5×43.0cm

狗巻 賢二
作品 92-5
1992年
油彩、カンヴァス
60.5×43.0cm

狗巻 賢二
作品 92-6
1992年
油彩、カンヴァス
60.5×43.0cm

狗巻 賢二
作品 92-7
1992年
油彩、カンヴァス
58.0×42.0cm

狗巻 賢二
作品 92-8
1992年
油彩、カンヴァス
58.0×42.0cm

狗巻 賢二
作品 92-9
1992年
油彩、カンヴァス
58.0×42.0cm

狗巻 賢二
作品 92-10
1992年
油彩、カンヴァス
58.0×42.0cm

狗巻 賢二
作品 92-15
1992年
油彩、カンヴァス
56.5×41.5cm

狗巻 賢二
作品 92-16
1992年
油彩、カンヴァス
56.5×41.5cm

榎倉 康二
干渉
制作年不詳
油彩、綿布、板
72.5×53.0cm

草間 彌生
No. AB.
1959年
油彩、カンヴァス
210.3×414.4cm

高松 次郎
赤ん坊の影 No.122
1965年
ラッカー、カンヴァス
182.0×227.0cm

田中 信行
肉の刃
1994年
漆、麻布、発砲スチロール
87.5×19.0×10.0cm

村上 友晴
無題
1989-90年
油彩、カンヴァス
162.0×130.0cm

ヴォルフガング・ライプ
ライスハウス
1996年
大理石、米
18.0×77.0×18.0cm

ヴォルフガング・ライプ
ライスハウス
1996年
大理石、米
25.0×97.0×27.0cm

李 禹煥
風と共に
1987年
油彩、岩絵具、カンヴァス
227.0×182.0cm

ギュンター・ユッカー
変動する白の場
1965年
釘、カンヴァス、木、アクリル
150.0×150.0cm

森村 泰昌
なにものかへのレクイエム
(創造の劇場／動くウォーホル)
2010年
HDTV(モノクロ)、サイレント
3分58秒
寄託作品

小林 孝亘
Classroom
1993年
リトグラフ、紙
45.0×32.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Globejungle
1993年
リトグラフ、紙
45.0×32.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Television
1993年
リトグラフ、紙
45.0×32.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Dream
1993年
リトグラフ、紙
32.0×45.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Shell
1993年
リトグラフ、紙
32.0×45.0cm
作家蔵

篠原 有司男
ボクシング・ペインティング
2007年
墨、カンヴァス
240.0×1800.0cm
寄託作品

横山 奈美
ラブと私のメモリーズ
2018-19年
鉛筆、紙、額
サイズ可変
寄託作品

終わり／始まり（展示室4）

小林 孝亘
Portrait-gray turtle-neck sweater
2007年
油彩、カンヴァス
90.9×72.7cm
杉山光男氏蔵

斎藤 義重
トロウッド
1938年(1973年再制作)
アクリル、合板
120.0×100.0cm

斎藤 義重
作品 10
1961年
油彩、合板
181.4×121.2cm

白髪 一雄
無題
1957年
油彩、紙
182.0×242.0cm

田中 敦子
Work 1963 B
1963年
合成樹脂エナメル塗料、カンヴァス
162.2×133.5cm

元永 定正
作品 65-3
1965年
油彩、綿布
182.6×274.3cm

吉原 治良
無題
1961年
油彩、カンヴァス
162.0×131.0cm

アルマン
カシャ パシャ、シッパイ
1962年
カメラ、木箱
60.0×100.0×22.0cm

フランシス・ベーコン
スフィンクス
1953年
油彩、カンヴァス
151.0×116.0cm

アルベルト・ブッリ
赤 プラスチック
1964年
燃焼、プラスチック、カンヴァス
60.0×50.0cm

クリスト
梱包
1961年
布、ロープ、ボード
75.0×60.0×20.0cm

ルーチョ・フォンターナ
空間概念
1962年
油彩、カンヴァス
129.0×97.0cm

ルーチョ・フォンターナ
空間概念
1962年
油彩、カンヴァス
100.0×81.3cm
寄託作品

イヴ・クライン
モノクローム IKB 65
1960年
顔料、合成樹脂、カンヴァス、合板
199.0×152.5cm

グスタフ・クリムト
オイゲニア・プリマフェージの肖像
1913/14年
油彩、カンヴァス
140.0×85.0cm

オスカー・ココシュカ
絵筆を持つ自画像
1914年
油彩、カンヴァス
82.3×66.0cm

ピエロ・マンゾーニ
無色
1958/59年
カオリン、襞のあるカンヴァス
80.0×60.0cm

エゴン・シーレ
カール・グリュンヴァルトの肖像
1917年
油彩、カンヴァス
140.7×110.2cm

小林 孝亘
新作展「真昼」（展示室5）

小林 孝亘
On the beach - table
2022年
油彩、カンヴァス
218.2×290.0cm
作家蔵

小林 孝亘
On the beach - vessel
2022年
油彩、カンヴァス
290.0×218.2cm
作家蔵

小林 孝亘
On the beach - chair
2022年
油彩、カンヴァス
194.0×259.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Block
2022年
油彩、カンヴァス
259.0×259.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Block - yellow ball
2022年
油彩、カンヴァス
116.7×91.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Block - multicolored
2022年
油彩、カンヴァス
94.0×72.7cm
作家蔵

小林 孝亘
Cat
2022年
油彩、カンヴァス
65.2×53.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Vessel - blue
2022年
油彩、カンヴァス
24.2×33.3cm
作家蔵

荒木 経惟
センチメンタルな旅
1971年
モノクロームプリント、バライタ紙
34.0×41.0cm

荒木 経惟
センチメンタルな旅
1971年
モノクロームプリント、バライタ紙
34.0×41.0cm

荒木 経惟
冬の旅
1989-90年
モノクロームプリント、バライタ紙
34.0×41.0cm

城戸 保
木と鉄
2014年
タイプCプリント
90.0×113.0cm

徳岡 神泉
柳
1953年
膠彩、紙
57.2×85.3cm

ペーター・ベーレンス
ゴブレットグラス・セット
デザイン年：不詳
製作年：1899年
ガラス
15.5cm/Φ8.0cm、10.9cm/Φ6.1cm、20.7cm/Φ7.9cm、13.3cm/Φ7.3cm、21.0cm/Φ9.6cm、9.8cm/Φ5.2cm、13.6cm/Φ7.6cm、20.7cm/Φ7.9cm、12.5cm/Φ7.1cm、17.9cm/Φ7.1cm

アリギエロ・ボエッティ
ONONIMO
1972-73年
インク、紙
各70.0×100.0cm（11枚組）

［特別連携展示：豊田市民芸館］
小林 孝亘
Octpuspot Trap
2009年
油彩、カンヴァス
50.0×40.0cm
作家蔵

小林 孝亘
Inverted vessel
2015年
油彩、カンヴァス
100.3×80.2cm
作家蔵

小林 孝亘
Vessel - green
2022年
油彩、カンヴァス
24.2×33.3cm
作家蔵

［特別連携展示：豊田市民芸の森］
小林 孝亘
Block
2022年
油彩、カンヴァス
91.0×91.0cm
作家蔵

※所蔵先の表記がない作品はすべて
豊田市美術館蔵

真昼

海の近くで暮らすようになって10年になる。

暮らし始めてから、よく海辺を散歩するようになった。海や空の色はいつも違っていて、雲も決して同じ形の日はなく、刻々と変化していく。雲を追っていくと、視線は上へ上へと移り、飽きずにずっと眺めていられる。海を見ていると自然に遠くに目がいって、視野が広がってきたと感じている。

以前から描いていた森のイメージは、描き始めた頃は「深い森の中」という設定で描いていたから、画面全体が緑で覆われていた。森をさら深くに進んでいくうちに、ある時点から徐々に開けていって空が見え始め、その割合が少しずつ多くなっていった。そろそろ森を抜けそうな予感の中で、制作ノートに海辺の風景を描くようになり、机や壺、積み木などが砂浜にある風景を紙に油彩でドローイングするようになった。それらのイメージを大きめのキャンバスに描き始めた頃「サンセット／サンライズ」の話を伺った。

展覧会は、所蔵作品で構成する企画展で、その中に自分の作品が絡んでいくという内容を聞いて、最初はどんな展覧会になるのか予想がつかなかった。「マジックアワー」「眠り／目覚め」「死／生」「見えない／見える」「黒／白」「終わり／始まり」という6つの章立てを聞き、展示候補作品を見ていく中で、特に眠り、目覚め、死、生、見えない、見える、黒、白といったことは、これまで自分が制作してきた作品にも通底するものだと感じた。所蔵作品との相性などはあるにせよ、何をどこに展示してもそれほど違和感はないのではと感じた。展覧会の続きとして、展示室5に新作と自分が選んだ所蔵作品とを展示することになり、思いもよらず潜水艦を含めた旧作から新作までを展示できることになった。

展示室5のタイトル「真昼」は「サンセット／サンライズ」の章立てを引き継ぎ、夜が明けて朝になり、そして昼になるというあたりまえの時間の流れと、新作が昼間の海辺の風景ということで付けている。それ以上に深い意味はないが、少しずつ変化しながら繰り返されている日々は決してあたりまえではなく、奇跡のようなバランスで成り立っている不確かなもので、明日が来るということはありがたいことなのだ、という思いに繋がればと思う。選んだ所蔵作品は基本的に好きな作家の作品だが、アレギエロ・ボエッティの揺らぎや変化、城戸保の鮮やかな光、徳岡神泉のたおやかさ、ペーター・ベーレンスのグラスの輝きと脆さ、荒木経惟の死生観など、少なからず展覧会のテーマを含んでいると感じている。

小林孝亘